

聖霊シリーズ「教える賜物」

1A 「賜物」としての教え

2A 「宣べ伝える」と「教える」こと

3A 聖書にある教える賜物

1B 旧約聖書

2B 新約聖書

4A 聖霊の油注ぎ

5A 教えによる実

本文

今晚の聖霊シリーズの学びは、「教える賜物」に入ります。コリント第一 12 章 28 節を読みます。「1コリント 12:28 **そして、神は教会の中で人々を次のように任命されました。すなわち、第一に使徒、次に預言者、次に教師、それから奇蹟を行なう者、それからいやしの賜物を持つ者、助ける者、治める者、異言を語る者などです。**」ここに出てくる、「教師」というところです。ローマ人への手紙 12 章 7 節にも、あります。「**奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教えなさい。**」そしてもちろん、エペソ 4 章において、教会を指導する賜物の中に、「**ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。(11 節)**」とあります。

1A 「賜物」としての教え

教えるということについて、しばしば誤解されているのは、「知識として与えられたものを、伝えていく」というものです。経験において、また学習によって知ったものを、それを分かち合っていけば、人々は大切な知識を得ることができる、というのは、人間の世界、特に教育機関によって行われています。そして聖書の学びでさえが、その内容が、いわば「わかる」とそれで喜んで終わっている過ちを犯しています。そして知ったことを、他の人々に伝え、教えようとしします。その中で、クリスチャンらしく語り、クリスチャンらしく祈り、聖書を知っている者らしく語ることはできるのですが、空回りしてしまいます。実質が伴っていないからです。

いいえ、教会における聖霊の働きとしての教えは、常に「人格」に語りかけるものになっています。神ご自身がその人に神の言葉を通して現われてくださり、私たちの心と魂、また霊を揺さぶり、主イエス・キリストという方に従う応答が迫られます。キリストの似姿に変えられる、キリストにあって成長して大人になること、そして教会が建て上げられることが、教えることの目的です。

そして、教える者も、このことが試されるのです。知識を持っていることと、教えることは違うからです。パウロは、教えている者が福音を知らない可能性を次のように説明して、指摘しています。「ローマ 2:21-22 どうして、人を教えながら、自分自身を教えないのですか。盗むなど説きながら、

自分は盗むのですか。姦淫するなど言いながら、自分は姦淫するのですか。偶像を忌みきらいながら、自分は神殿の物をかすめるのですか。」福音を知っている人は、自分自身にその教えていることを教え、その基準から自分が外れていることを悟り、自分自身もキリストの十字架のところに行き、罪の赦しを請うのです。

教会において教えるというのは、常に主から受けていることを意味しています。パウロがこう言いました。「1コリント 11:23 私は主から受けたことを、あなたがたに伝えたのです。」聖書を教える準備をする時に、祈り、そして主から与えられる思いを求めます。そして聖霊から語られることを求めて、その与えられたものを分かち合っています。ですから、これは元々備わった才能ではなく、上からの油注ぎ、聖霊の賜物なのです。もしそれが与えられないと、本当に前に進むことができません。語ろうとしても語ることができず、語っているところでかなりぎこちないものになってしまいます。ですから、主に拠り頼みます。自分自身には決してできないことを知っています。そして、ただ上からの油注ぎがなければ、自分は何もできないことを知りながら語る時、そのまま流れ出ていきます。確かにそれは、自分の才能ではなく、神からの賜物なのです。

2A 「宣べ伝える」ことと「教える」こと

ここで、「宣べ伝える」ことと、「教える」ことの違いを考えてみたいと思います。パウロがこう言いました。「2テモテ 1:11 私は、この福音のために、宣教者、使徒、また教師として任命されたのです。」「宣教者」と訳されているところは、「宣べ伝える者」ということ、そして使徒は「遣わされている者」ということ、そして教師はもちろん「教える者」です。

宣べ伝えるということは、人々に宣言する、布告する、神の真理、福音の真理を宣言することです。この働きが如実に出てくるのは、路傍伝道やまだ主を知らない人々に福音を語る時にすることです。神の言葉を宣言することによって、聞いている人に罪の自覚が聖霊によって与えられ、悔い改め、イエスを信じる信仰に至るように導くことができます。そして、教えるということは、神の知識の理解を与えます。そして、イエス・キリストの知識と恵みによって成長することができるようにします。「2ペテロ 3:18 私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの恵みと知識において成長しなさい。」ですから、前者、宣べ伝えることは未信者の人々にも語りかけることのできる内容が含まれており、後者はすでに信仰を持っていて、その信仰が養われるということです。私たちの教会では、午前礼拝の説教がやや、この宣べ伝えるという側面があります。そして午後礼拝において、教えるという側面が強く出ています。

したがって、教えることは教会が霊的に、実質的に成長するのに不可欠な働きです。エペソ 4 章において、キリストが牧師また教師をお立てになったことをパウロが語って、続けてこう書いています。「エペソ 4:12-13 それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。」

けれども使徒たちの手紙を読むと、教会において、その成長ができていない人々の問題が書かれています。「ヘブル 5:12-14 あなたがたは年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっています。まだ乳ばかり飲んでいような者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。しかし、堅い食物はおとなの物であって、経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です。」神の御言葉を教える時、それが堅い食物だと表現しています。それは、すぐには自分の感情を納得させないことでしょう。しかし、よく噛んで、反芻もし、それで栄養、滋養として効果的に入ってくるものです。初めに信仰を持つ人は、それは難しいです。しかし少しずつ、堅い食べ物に移行できます。

けれども、神の言葉を聞いても、それを自分のものとして受け入れないで、自分自身に変化をもたらさない状態のまましていると、いつの間にか成長不良状態が起こり、霊的成長が阻まれてしまいます。そこで、「年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず」という言葉が出てくるのです。コリントにある教会に対しても、パウロが語りました。「1コリント 3:1-3 さて、兄弟たちよ。私は、あなたがたに向かって、御霊に属する人に対するようには話すことができないで、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように話しました。私はあなたがたには乳を与えて、堅い食物を与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。実は、今でもまだ無理なのです。あなたがたは、まだ肉に属しているからです。あなたがたの間にねたみや争いがあることからすれば、あなたがたは肉に属しているのではありませんか。そして、ただの人のように歩んでいるのではありませんか。」

ですから、成熟が必要です。成長が必要です。成長する時は、私たちの体に痛みが起こります。思春期においては、精神的にも混沌とした時期を通ります。それは子供から大人に向かう、人格的な安定が与えられるのに必要な過程です。成熟の過程においては、信仰的に試練が与えられ、けれどもそこで神の約束にしがみつき、忍耐して主を待つときに、自分の内が練り清められ、真実な希望、安定した希望へと導かれます。先ほど引用したヘブル書 5 章の続きに、著者はこう進めています。「ヘブル 6:1 ですから、私たちは、キリストについての初歩の教えをあとにして、成熟を目ざして進むではありませんか。」

霊的な成長には、神の御言葉が不可欠です。多くの人が、霊的に進歩するためには特別な体験をしなければいけないと思っています。主はもちろん、聖霊の目覚ましい働きによって、それを契機に大きな霊的進歩を与えてくださいます。聖霊のバプテスマそのものが、大きな一歩を踏ませる体験です。けれども、持続的な成長、実質的な成長は神の言葉によってもたらされます。なぜなら、御言葉そのものが、何が単なる精神的なことなのか、それとも霊的なことなのか、それを見分ける力を与えてくれるからです。「ヘブル 4:12 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髓の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。」

私たちの周りには、表向き霊的に見えるものがたくさんあります。キリスト教会生活のあらゆる面でそれを見ることができます。それが特に、単に感情的なもの、精神的なものであるのに、それが霊的なものであると混同することがあるのです。それを分けてくれるのが神の御言葉です。たましいと霊の分かれ目さえも刺し通すことができるからです。そこでパウロは、風のように吹いてくるものに振り回されない、安定した信仰が与えられることを教えています。「エペソ 4:14-15 それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもたあそばれたりすることがなく、むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。」

3A 聖書にある教える賜物

聖書に出てくる、教える賜物を用いている例を見ていきましょう。

1B 旧約聖書

聖書に初めて出てくる「教える」という言葉は、出エジプト記 4 章 12 節に出てきます。「さあ行け。わたしがあなたの口とともにあって、あなたの言うべきことを教えよう。」主がモーセに対して、あなたがイスラエルの民に対して教師となる、その教える力をあなたに与える、とされています。そしてアロンについて神が、こう言われました。「15 節 あなたが彼に語り、その口にことばを置くなら、わたしはあなたの口とともにあり、彼の口とともにあって、あなたがたのなすべきことを教えよう。」教えることだけでなく、なすべきことも教えてください。

イスラエルの民に、教える者がいなくなったので彼らが苦しみの中にあつたことを、預言者によって主が語られました。「2 歴代 15:3 長年の間、イスラエルにはまことの神なく、教師となる祭司もなく、律法もありませんでした。」ですから、神の民にとって教えることは、死活的なものでした。バビロンから解放されて、帰還した民がこのように祈りました。「ネヘミヤ 9:20 あなたは、彼らに悟らせようと、あなたのいつくしみ深い霊を賜わり…」神が霊を注いでくださり、そして教えること、悟りを与えることをしてください。

2B 新約聖書

新約聖書に入りますと、イエス様が行われていた宣教というのは、主に教えることでした。「ルカ 4:31 それからイエスは、ガリラヤの町カペナウムに下られた。そして、安息日ごとに、人々を教えられた。」会堂だけではなく、舟の上からも教えられました。「5:3 イエスはすわって、舟から群衆を教えられた。」イエス様が行われていたことは主に教えることだったので、福音書においては 48 回、イエス様が、「先生」（「教師」という意味）と呼ばれています。そしてイエス様は、弟子たちにこの教える働きをするように命じられました。「マタイ 28:19-20 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

そして、イエス様の命令を使徒たちはそのまま実行しました。使徒の働きでは、パウロの教師としての存在は大きいです。彼は回心した後、アラビア半島まで行き、それからエルサレムを訪問しました。彼の同じパリサイ派に対して福音を伝える熱意はあまりにすぐく、彼は命を狙われることになったので、彼は故郷の町タルソに戻りました。けれども、アンテオケで教会が誕生してから、バルナバがパウロを連れて来ました。彼はユダヤ教の教育をしっかりと受けていながら、なおかつギリシヤ文化の中で育った、異邦人のことに精通している人だったのです。それで彼は教える働きに入ったのです。「使徒 11:25-26 バルナバはサウロを捜しにタルソへ行き、彼に会って、アンテオケに連れて来た。そして、まる一年の間、彼らは教会に集まり、大ぜいの人たちを教えた。弟子たちは、アンテオケで初めて、キリスト者と呼ばれるようになった。」

パウロはアンテオケの教会で「教師」と呼ばれています(使徒 13:1)。そして 15 章 35 節では、「パウロとバルナバはアンテオケにとどまって、ほかの多くの人々とともに、主のみことばを教え、宣べ伝えた。」とあります。福音を宣べ伝えることもしたし、また神の御言葉を教えることもしました。そしてコリントにおける宣教では、パウロは一年半そこに留まったことが書かれています(18:11)。さらにエペソにおいては、2-3 年はそこにいたと思われます。アンテオケでも、コリントでも、エペソでも、教えるというのは、時間のかかる作業であることが分かります。表だって、目覚ましい変化が見えないのです。けれども、忍耐して、しっかりと教えることによって、確かに人々が主の恵みと知識によって成長するのが分かるのです。

パウロが、いかにエペソにおいて心血を注いで御言葉を教えていったのかは、彼がそこに長老たちを集めて語ったところに表れています。「使徒 20:19-21 私は謙遜の限りを尽くし、涙をもって、またユダヤ人の陰謀によりわが身にふりかかる数々の試練の中で、主に仕えました。益になることは、少しもためらわず、あなたがたに知らせました。人々の前でも、家々でも、あなたがたを教え、ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰とをはっきりと主張したのです。」そして彼は大胆にこう宣言しました。「20:27 私は、神のご計画の全体を、余すところなくあなたがたに知らせておいたからです。」神のご計画を余すところなく知らせた、ということです。神のご計画の全体は、今、私たちの手にある創世記から黙示録までの聖書の中に啓示されています。それを順番に、体系的に私たちのカルバリーチャペルの群れは従事しています。

聖書講解という言葉で、しばしば聖書を一節ずつ教えることを表現しますが、聖書講解あるいは講解説教の手本は、ネヘミヤ記 8 章 8 節に見いだされます。「彼らが神の律法の書をはっきりと読んで説明したので、民は読まれたことを理解した。」はっきりと読む、そしてそれを説明します。その効果は、聞いている人々に書かれていることへの理解を与えることです。

4A 聖霊の油注ぎ

パウロは教える時に、聖霊の賜物によって教えていたことを思い出すのはとても大切です。彼は当時の著名なユダヤ教の教師ガマリエルの下で教えを受けた人ですから、一流の教師であった

はずです。しかし彼は、これらのものがちりあくたであると言っています。「ピリピ 3:8 それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損とと思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくたと思っています。」イエス・キリストの知識のすばらしさ、これを彼は伝えていました。

そしてコリントにおいても同じでした。「1コリント 2:4-5 そして、私のことばと私の宣教とは、説得力のある知恵のことばによって行なわれたものではなく、御霊と御力の現われでした。それは、あなたがたの持つ信仰が、人間の知恵にささえられず、神の力にささえられるためでした。」思いの中で「私はイエスを信じます」ということと、心でイエスを自分の救い主、主と受け入れることの間には大きな開きがあります。パウロは、単に人の思いを変えるのではなく、心に届きたかったのです。ですから、説得力のある言葉を使わずに、十字架に付けられたキリストを宣べ伝えたのです。そのことによって、神の力に信仰が支えられます。

そして、御霊に拠らなければ決して、御霊に関する事柄、すなわち神の言葉を悟ることはできません。「1コリント 2:13-14 この賜物について話すには、人の知恵に教えられたことばを用いず、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばをもって御霊のことを解くのです。生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわかまえるものだからです。」聖霊が導かれて書いた聖書は、聖霊によって理解することができます。

5A 教えによる実

そして、教えを受ける信者たちの特徴を、イザヤ 54 章 13-14 節で読んでみたいと思います。「あなたの子どもたちはみな、主の教えを受け、あなたの子どもたちには、豊かな平安がある。あなたは義によって堅く立ち、しいたげから遠ざかれ。恐れることはない。恐れから遠ざかれ。それが近づくことはない。」豊かな平安です。恐れが遠ざかります。これは、試練や状況の変化が起ころうとも、それに左右されず安定していられる、満ち足りた心のことです。豊かにされていない時は、私たちは落ち着きがなくなります。何かを求めて必死になります。安定しません。熱心になっても、知識がないので、急ぎ足になります。また、周囲の人々に争いをもとめます。妬みが出てきます。罪や肉の欲望の戦いに打ち勝てません。

けれども、主の教えによって豊かな平安が与えられると、そうした心の不安や恐れから遠ざかることができます。なぜなら、主がどれほどすぐれた計画を持っておられるのかを知ることができるからです。主がどれほど愛しておられるのか、その深みを知ることができます。主が何をしておられるのか、これから先のことを期待することができます。

教える賜物を求めましょう。すでに、教える奉仕をしておられる方もいますね。日曜学校、また新しい信者の学びで教えておられます。どちらも、とてつもない特権です。その柔らかい心に、神の

ことついて、それがその後の人生で変わる事のない知識を植えているのです。次の言葉は、牧者に対するものですが、教える賜物が与えられている全ての人にも、当てはめることができますでしょう。「1テモテ 4:14-16 長老たちによる按手を受けたとき、預言によって与えられた、あなたのうちにある聖霊の賜物を軽んじてはいけません。これらの務めに心を砕き、しっかりやりなさい。そうすれば、あなたの進歩はすべての人に明らかになるでしょう。自分自身にも、教える事にも、よく気をつけなさい。あくまでそれを続けなさい。そうすれば、自分自身をも、またあなたの教えを聞く人たちをも救うことになります。」